

# 日本レジャー・レクリエーション学会 第36回学会大会開催に寄せて

日本レジャー・レクリエーション学会(JSLRS)

会長 鈴木 秀 雄

(関東学院大学人間環境学部)

第36回学会大会のテーマは「ともに育つために求められているレジャー・レクリエーション」です。平安女学院大学（大阪：高槻キャンパス）の多大なご協力をいただき、ここに盛大に開催できますことを心から感謝するしだいでです。

特に、マーレー寛子大会実行委員長には多くの時間とエネルギーを割いていただき、大会の企画から運営まで深くかかわっていただきました。役員初め、学会員の皆さんの心からの感謝もこめて、ここに深く御礼を申し上げます。

さて、小田切毅一学会副会長は、先の「学会ニュースNO. 83」（2006年11月）の挨拶で、“レジャー・レクリエーションから「生活の質」（QOL）への挑戦を”と題して、今、抱える社会の諸問題を、レジャー・レクリエーションの課題として捉え、これからの時代に挑戦する「キー概念」とレジャー・レクリエーションをみなし、そのための研究対象を一層横断的・複合的に再検討していく必要がある、と述べています。

この“Quality of Life”は、時に、生命の質であったり、生活の質であったり、人生の質であったりもしますが、超高齢化社会、そして既に人生の三分の一が余暇である超余暇社会に生きる我々にとって、QOLもさることながら、むしろもっと先にある「個人の生活の喜び（EPL=Enjoying Personal Living）とは何なのか」を学会としても明確に示していかなければならない専門領域でもあります。

特に高等教育機関（研究科、専攻、学部、学科、コースなど）において、レジャー・レクリエーションの研究・教育が制度化され、カリキュラムとして位置づけられたレジャー・レクリエーションの高度な研究・教育の実践とともに、その高度で学際的な **Discipline** を有する研究者、教育者、指導者の養成・輩出も急務です。

甚だ卑近な例ではありますが、関東学院大学では人間環境学部（4学科構成）に対応する形態で、1研究科1専攻5領域の大学院を2008年に設置することを目途に準備を進めています。5領域のひとつに、学会と全く同じ共通言語を有する「レジャー・レクリエーション環境領域」が設置されます。レジャー・レクリエーション環境論；レジャー・レクリエーション・スポーツ特論；セラピューティックエクササイズ特論；スポーツ医学特論；運動栄養学特論；レジャー・空間・リゾート環境特論；修士論文対応のレジャー・レクリエーション環境演習Ⅰ～Ⅳなどが開設予定科目です。

今後、多くの高等教育機関でのレジャー・レクリエーション研究・教育が活発になされ、高度な人材育成がなされることを願うばかりですが、本学会長としても、また前述大学院研究科設置構想における研究科委員長予定者としても、学会と密接な連携をとりながら博士課程までの実現に力を注ぎたいと願っています。

今回の学会大会も多様な発表形式により研究成果の発表の場が準備されています。また、学会総会では、学会活性化に向けて、いくつかの新機軸が提案されます。多数の学会員のご参加とご協力により、第36回学会大会が実り多き研究・交流の場になりますことを心から願っています。